



さいばいニュース

Vol.122

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒 238-0237

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

TEL 046 (882) 6980

FAX 046 (881) 2233

令和8年度 事業計画

放流方法を検討し、磯焼け対策の取り組みも

1. 基本方針（抜粋）

今年度はマダイ、アワビ、サザエ、トコブシの種苗生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。

魚類の種苗生産については引き続き協会の陸上施設で中間育成を実施し、経費等の削減を図り運営改善に努めていきます。ヒラメを始め業界からの要望が高いカサゴ、メバル、マコガレイ種苗などを入手し放流供給します。種苗の放流効果を高めるため放流方法を検討していきます。

近年の磯焼け（漁場の海藻類が枯れて消失し砂漠化している）海域の環境保全が重要視され、保全活動の一つとして水生植物（アマモ苗）の移植が注目を集めています。今後需要が見込まれる水生植物（アマモ苗）の育成技術の習得に努めます。

そして、当協会の活動に理解と協力が得られるよう、漁業者はもとより広く神奈川県民に対し、東京湾並びに相模湾の海洋環境の保全と水産資源を豊かに保つ必要性を訴える普及啓発活動を行います。

広報紙「栽培ニュース」やホームページを活用し協会の活動について発信していきます。



これから放流がはじまるマダイ種苗

2. 事業の内容

（１）種苗放流事業

マダイ種苗放流事業

ア. 種苗生産尾数	(全長 20mm)	50 万尾
イ. 放流尾数	(全長 60mm)	25 万尾
ウ. 放流場所	東京湾域	5 万尾
	三浦半島西岸域	5 万尾
	西湘域	5 万尾
	マダイ協力金	10 万尾

ヒラメ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長 60mm)	7 万尾
イ. 放流場所	東京湾域	2.5 万尾
	三浦半島西岸域	2.5 万尾
	西湘域	2 万尾

種苗供給事業

事業名	種苗名(サイズ)	8 年度(計画)	7 年度(実績)
生産供給	アワビ (5mm)	10,000 個	10,000 個
	〃 (25mm)	120,000 個	125,500 個
	〃 (30mm)	30,000 個	29,230 個
	サザエ (15mm)	960,000 個 122kg	995,550 個 126kg
	トコブシ (15mm)	45,000 個	52,260 個
	トコブシ※(大型)	70kg	70kg
	マダイ (60mm)	230,000 尾	241,950 尾
斡旋供給	ヒラメ (60mm)	213,000 尾	218,309 尾
	マコガレイ (30mm)	53,000 尾	36,000 尾
	クロダイ (60mm)	15,000 尾	10,000 尾
	メバル (60mm)	27,000 尾	43,000 尾
	カサゴ (60mm)	135,000 尾	133,090 尾
	トラフグ (50mm)	10,000 尾	10,000 尾
	カワハギ (50mm)	42,000 尾	39,200 尾

※トコブシ（大型）は養殖用種苗

（２）普及啓発事業

① PR 推進事業

「栽培ニュース」(2,000 部 / 回、年 2 回) を作成し県内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等へ配布し当協会の広報活動を実施します。また、ホームページから協会の活動状況を積極的に発信していきます。

② イベント推進事業

今年度は各地で開催される地域活動に参加し種苗放流の体験イベントを実施をしていきます。

（３）調査事業

マダイ遊漁標本船調査 県内遊漁船の中からマダイ遊漁船 11 隻を対象に標本船調査を実施します。

（４）種苗供給事業

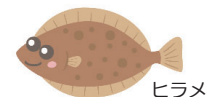
① 生産供給

アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ種苗を生産し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。従来から配布先である県外関係機関へも引き続き供給できるように取組みます。また、クロアワビ種苗の安定生産を行い県外に配布するように努めます。

② 斡旋供給

ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体へ供給します。

pick up! 種苗放流



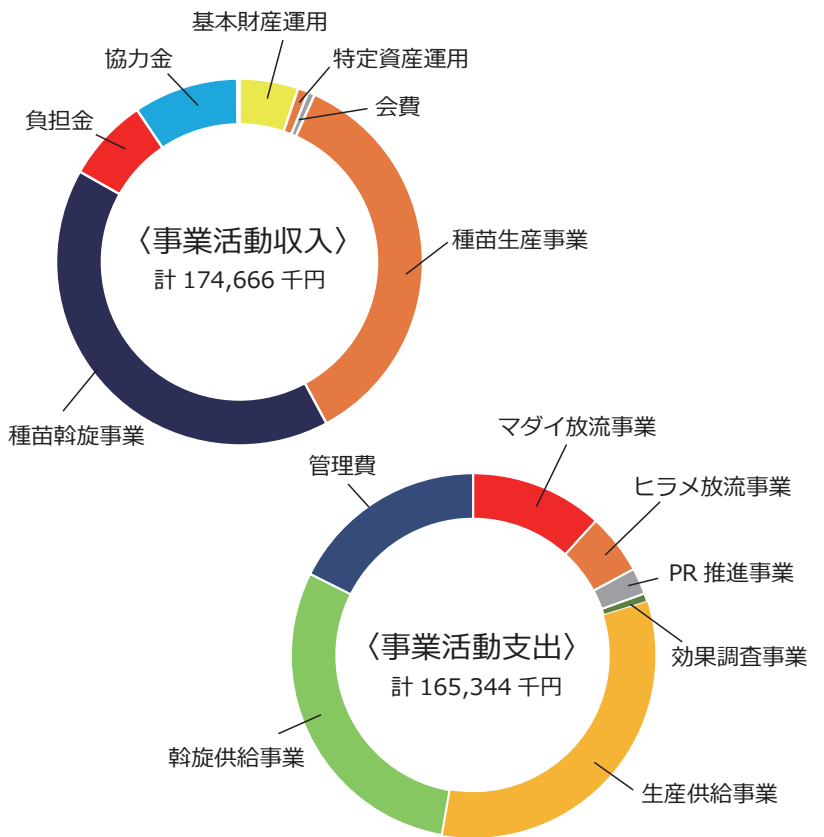
令和8年度 予算

令和8年度予算は収入で174,666千円、支出で167,686千円と見積もっています。前年の予算と比較すると収入で854千円の減、支出で5,168千円減となっています。

収入では漁業者と遊漁案内業者の人数が減少し、負担金と協力金が減少しています。

支出では職員の配置を見直し人件費の抑制に努めます。

餌飼料費が円安の影響を受け価格の上昇があり、また光熱水料費も引き続き種苗の飼育水をポンプで海から取水していますので昨年と同様値上げの影響がでています。マダイの種苗生産が終了後は、大型取水ポンプを止め、支出の削減を図る予定です。



令和 8 年度 資金収支予算書（参考）

（単位：千円）			（単位：千円）		
事業活動収入	当年度	前年度	事業活動支出	当年度	前年度
基本財産運用	7,501	7,501	マダイ放流事業	19,463	23,948
特定資産運用	1,348	1,470	ヒラメ放流事業	8,890	5,871
会費	865	890	PR 推進事業	3,865	4,087
種苗生産事業	81,114	76,070	効果調査	1,243	1,857
種苗斡旋事業	59,274	63,011	生産供給事業	53,766	51,382
受取補助金	314	0	斡旋供給事業	48,998	51,023
負担金	10,634	11,249	管理費	29,119	29,566
協力金等	13,313	15,093	計	165,344	167,734
雑収入	303	235			
計	174,666	175,520			

※千円未満は四捨五入の関係で「計」で差異が生じます。



令和 7 年度決算報告

令和7年度の貸借対照表と正味財産増減計算書の概要を報告します。
貸借対照表の資産の部では、流動資産が11,150千円、固定資産が679,908千円で、資産合計691,058千円です。

負債の部では流動負債が53,942千円、固定負債が21,929千円で、負債合計75,871千円でした。正味財産の部では、指定正味財産402,201千円、一般正味財産212,986千円で、正味財産合計615,187千円でした。負債及び正味財産の合計は691,058千円でした。令和6年度との比較では、特定資産が12,860千円の減となりました。これは、保有する第34回神奈川県公募債2億円の時価評価が昨年引き続き大幅な評価損を計上しました。令和7年度もアワビ種苗の生産不調のため、他県からの種苗購入がありました。根本的な予防として紫外線照射飼育水の施設整備が急がれます。

正味財産増減は、経常収益が令和6年度と比較すると279千円増えました。ただし、負担金が583千円、協力金が946千円減少していて、漁業者と遊漁案内業者の減少が反映しています。

詳しい決算書は神奈川県栽培漁業協会のホームページ (<http://www.kanagawa-sfa.or.jp>) の法人概要をご覧ください。

令和 7 年度 貸借対照表概要

	単位(千円)		
	令和 7 年度	令和 6 年度	増減
1.資産の部			
流動資産	11,150	7,580	3,570
基本財産	411,170	411,170	
特定資産	265,880	275,740	△9,860
その他固定資産	2,858	703	2,150
資産合計	691,058	695,199	△4,141
2.負債の部			
流動負債	53,942	55,626	△1,684
固定負債	21,929	20,363	1,567
負債合計	75,871	75,988	△117
3.正味財産の部			
指定正味財産	402,201	402,201	
一般正味財産	212,986	217,009	△4,023
正味財産合計	615,187	619,210	△4,023
負債及び正味財産合計	691,058	695,199	△4,141

※千円未満は四捨五入の関係で「増減」と「計」で差異が生じます。

令和7年度 正味財産増減計算書(抜粋)

	（単位:千円）		
科目	令和 7 年度	令和 6 年度	増減
1..経常収益			
基本財産運用益	7,504	7,503	2
特定資産運用益	1,498	1,599	△101
受取会費	865	875	△10
事業収益	144,222	142,492	1,730
受取補助金等	356	243	113
受取負担金	10,926	11,510	△583
受取協力金	13,669	14,615	△946
雑収益	305	230	75
経常収益計	179,346	179,067	279
2.経常費用			
事業費	142,036	137,651	4,385
管理費	28,474	30,058	△1,584
経常費用計	170,510	167,709	2,801
評価損益調整前増減額	8,837	11,359	△2,522
基本財産評価損益	△12,860	△16,680	3,820
当期経常増減額	△4,023	△5,321	3,820

※千円未満は四捨五入の関係で「増減」と「計」で差異が生じます。

栽培漁業協会 役員改選される

令和 8 年 6 月 15 日に開催された評議員会で、理事・監事・評議員が選任されました。任期は理事が 2 年間、監事・評議員が 4 年間です。

役職名	氏名	所属	備考	役職名	氏名	所属	備考
理事長	高橋 征人	神奈川県漁業協同組合連合会 代表理事会長		評議員	畑中 一彦	生麦子安漁業連合組合 監事	
専務理事	今井 利為	(公財) 神奈川県栽培漁業協会		評議員	小澤 紳一郎	長井町漁業協同組合 代表理事組合長	
理事	川崎 秀一	(公財) 相模湾水産振興事業団 専務理事		評議員	宮川 均	みうら漁業協同組合 理事	
理事	一之瀬 徹也	神奈川県釣船業協同組合 理事長		評議員	真間 義嘉	茅ヶ崎市漁業協同組合 代表理事組合長	
理事	黒川 正紀	横浜市漁業協同組合 副組合長理事	新任	評議員	小林 伸光	小田原市漁業協同組合 副組合長理事	
理事	福本 憲治	湘南漁業協同組合 代表理事組合長		評議員	岩崎 一郎	(一財) 東京湾南部水産振興事業団 副理事長	
理事	木村 秀男	みうら漁業協同組合 理事	新任	評議員	中村 壮志	日本漁船保険組合神奈川支所 支所長	新任※
理事	葉山 一郎	湘南漁業協同組合 副組合長理事		評議員	谷 英明	(一財) 横須賀西部水産振興事業団 事務局長	新任※
理事	杉山 武	平塚市漁業協同組合 代表理事組合長		評議員	黒田 圭次郎	神奈川トヨタ商事株式会社 代表取締役社長	新任

役職名	氏名	所属	備考
監事	滝口 直之	全国漁業信用基金協会神奈川支所 所長	新任
監事	柏 浩一	(一財) 東京湾南部水産振興事業団 専務理事	

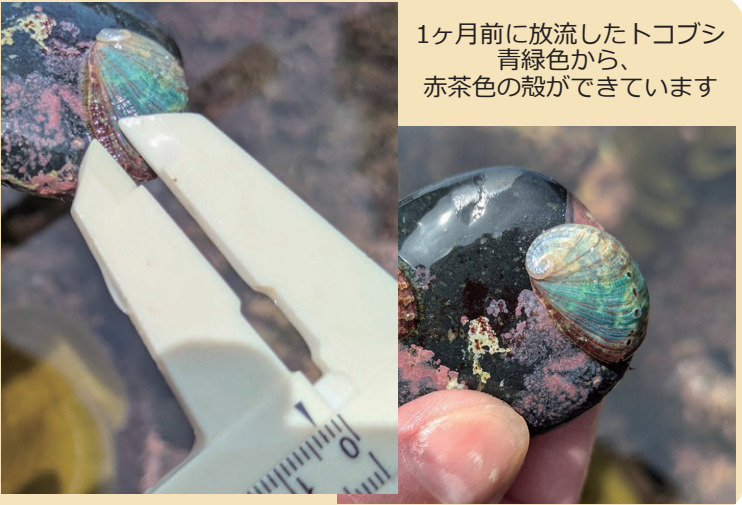
理事任期：令和 8 年 6 月 15 日から令和 10 年定時評議員会まで
監事任期：令和 8 年 6 月 14 日から令和 10 年定時評議員会まで
評議員任期：令和 8 年 6 月 14 日から令和 10 年定時評議員会まで
※評議員任期：令和 8 年 6 月 15 日から令和 12 年定時評議員会まで

トコブシの放流調査 2026

今年もトコブシ放流地調査を実施しました。過去 2 年で多くのトコブシ稚貝が確認できたので、今年は当協会が生産した稚貝を放流して、1 ヶ月後に調査を行いました。すると、放流した磯のあちこちで当協会のトコブシを多数確認することができました。さらに、放流後に海藻を食べて成長した殻の部分も確認できました。

放流前、室内で配合飼料を食べて育った稚貝の貝殻は鮮やかな青緑色です。ところが、放流して磯に生える藻類を食べるようになってから形成された殻の色は赤茶色になっていました。食べている海藻によって殻の色は変わりますが、明らかに放流してから成長した証拠です。

この稚貝たちが水揚げされるまで成長していくのか、今後も注視していきたいと思います。



ヒラメ種苗放流時期の見直し vol.2

櫻井 繁（神奈川県水産技術センター）

近年、本県ではヒラメ漁獲量の減少や放流魚の混入率、回収率の低下が見られますが、それらの要因は明らかになっていません。そこで、海水温の上昇等により餌の発生時期が早くなっているという他県の知見を参考にして、ヒラメ種苗の放流を 1 ヶ月早めるとともに、種苗が何を食べているのか調査を行いました。

令和 7 年 5 月 25 日及び 6 月 26 日に各 5 千尾を葉山町長者ヶ崎海岸へ放流し、投網を用いて採捕を実施しました（図 1）。5 月は放流 3 日後に 52 尾、18 日後に 2 尾、32 日後に 0 尾、6 月は放流 4 日後に 4 尾、13 日後に 0 尾となりました。天然稚魚も採捕され、5 回の調査で計 4 尾を採捕しました。採捕した放流種苗 36 尾及び天然稚魚 4 尾の消化管内容物を分析したところ、放流種苗は餌を捕食しているのは 31 尾、何も食べていないものは 5 尾でした。天然稚魚は全てが捕食していました。

放流種苗の 1 尾あたりの捕食生物は、ヨコエビ類を主体に平均 0.84 個体、天然稚魚は、アミ類を主体に平均 17.75 個体でした（図 2）。同じような調査が 2005 年に実施され、放流種苗の 1 尾あたりの捕食個体数は 2.5 個体となっていることから、今回の調査では餌の捕食個体数は 1/3 に減少していることが判りました。

昨年に放流された稚魚は、今年の秋から漁獲される大きさに成長することから、漁獲物中の放流魚の混入率や回収率を調査することで、放流時期を早めた効果を検証していきます。



図 1 葉山町長者ヶ崎海岸での投網調査

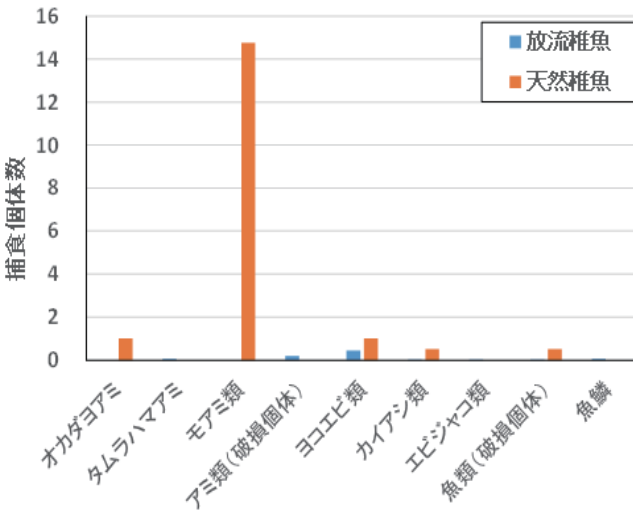


図 2 放流稚魚及び天然稚魚の 1 尾あたりの摂餌個体数

かながわ漁協探訪 ～湘南漁業協同組合 佐島支所～



横須賀市西部に位置する佐島は、沖合に大陸棚が広がり、好漁場となっています。港は佐島・芦名・秋谷・久留和の 4 地区があり、2024 年に葉山・鎌倉・藤沢と合併して大楠漁協から湘南漁協佐島支所と名前を変え、2025 年には小坪も合併したことで、唯一市場をもつ佐島の水揚げ量は増加しました。

所属する漁業者数は、正組合員 104 名・準組合員 81 名で、年齢層は 20 代から 90 代までと幅広く平均では 65 ～ 70 才です。漁法としては定置網・巻き網・シラス（3 ～ 12 月）・一本釣り・刺網・タコ・裸潜り（7 ～ 9 月）と多様で、主要な水揚げは定置網が地区内 2 ケ統と地区外から 2 ケ統の計 4 ケ統。遊漁船も 15 軒ありますが規制や燃料費の高騰で減少傾向です。タコとシラスはかながわブランドとなっています。

☆夏の旬の魚☆

© プライドフィッシュ

7 月からタコ漁が最盛期を迎えます。西の明石・東の佐島と評されるほど、佐島のタコは美味しくて有名です。茹でたタコを薄切りにしてワサビ醤油で、タコ焼きやタコ飯、塩焼きそばの具にするなど、色々な楽しみ方ができます。



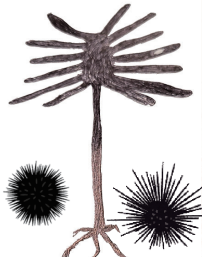
今年はシラスが豊漁です。獲れたての生シラスは甘みがあって地元でしか味わえません。ゆでたての釜揚げはもちろん、釜揚げよりも少し長く干した浜干しも味が凝縮されて美味しいです。

◇多角的に取り組む藻場再生◇

磯焼けによる漁獲量の減少は佐島でも起こっています。そこで、素潜りで漁業者がウニを潰したり、早熟カジメを導入したり、藻食であるアイゴの天敵といわれるアオリイカの産卵床を増やす取り組みをしています。アオリイカについては水揚げが順調で、今後に期待です。



アオリイカ



定置網の水揚げ

◇ヒオウギガイ養殖◇

横須賀市の協力のもと、2024 年から 3 カ年計画でヒオウギガイ養殖に取り組んでいます。愛媛県愛南町から稚貝を購入して海面で飼育しています。波が穏やかで、海面から近い位置に吊るしているため、付着物が多くなるという課題があります。あと 1 年でどのような成果があるか楽しみです。



アマモ初出荷

栽培漁業協会ではアマモ種苗を初めて販売しました。

園芸用のプランターに種株を植え、約 1 年間、陸上の水槽に流水で栽培して、葉上の汚れを除去したり株分けしたりして繁茂させました。

5 月 20 日と 6 月 14 日の 2 回に分けて、小網代湾（三浦市）の干潟にアマモを移植しました。移植の事業主体は NPO 法人小網代パール海育隊（出口浩代表）で一般社団法人天王洲・キャナルサイド活性化協会（三宅靖之代表理事）の支援を得ています。移植は 5 月 20 日に横浜市太田小学校 5 年生 53 名と日本さかな専門学校の 1・2 年生 33 名が参加しました。移植には、日本さかな専門学校の学生の支援を受け、小学生には小型ボートでアマモを移植する場所まで移動してもらい、学生があらかじめスコップで掘った穴にアマモの苗を植え付けました。アマモの苗はプランターの数としては 45 個、推定株数は約 2,000 株です。アマモを移植した場所には食害を防ぐため網目 1.6 cm の 50 × 50 m の囲い網を設置しています。

今後 NPO 法人小網代パール海育隊では、日本さかな専門学校の学生の支援でアマモの移植後の状態を観察していく予定です。



当協会の水槽で増殖したアマモ株



小学生と専門学生が参加した移植会



キスマスター 2026 と 横浜ゴム株式会社から寄付金

シーボニアマリーナ（株式会社リビエラリゾート）が開催した釣りイベント「キスマスター 2026」より、協議参加費の一部を水産資源維持のため寄付いただきました。

小泉支配人（右）と当協会専務理事



横浜ゴム株式会社より活動支援金として 100 万円が寄付されました。6 月 25 日には平塚市でヒラメ放流イベントも開催。その模様はさいばい日誌（note ブログ https://note.com/kanagawa_sfa）で公開しています。

職員紹介

協会は、高見一生さんを職員として採用しました。高見職員は、当協会業務課で水産種苗の生産・配布・放流・斡旋などの仕事をしています。



◇高見一生職員◇

長らく非常勤職員として在職してきましたが、今回、職員の辞令を受けました。非常勤の時とは違い、新たな責任と意志を伴う立場になるので、できる限り、勤めていきたいと思っています。

編集後記

従来の種苗生産や斡旋業務に加えて、ヒラメやトコブシの放流後調査や、アマモの出荷による藻場再生など、新たな取り組みを行っています。トコブシに関しては放流後に成長した貝が多く見られ、今後が楽しみです。藻場再生については、主催団体に加えて小学生や専門学校生なども参加して多方面からの関心の高さを感じることができています。ヒラメの放流後調査は今後に期待するとともに、新たな魚種へのアプローチや放流方法の改善や普及などにも取り組み、放流効果の向上によって漁獲が増えるよう尽力していきます。

